

平成 24 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究
領域代表者	恩田 裕一（筑波大学・生命環境科学研究科（系）・教授）
研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、2011 年 3 月に発生した福島第一原子力発電所の事故を受けて、放出された放射性核種の拡散・輸送・沈着・移行過程の実態とメカニズムを研究・解明し、さらに、長期的な汚染状況の変動を予測しようとするものである。国が先導する取組が既に進行しているが、それとは別にボトムアップの視点から実施する本課題の重要性は大きい。</p> <p>大気、海洋、陸水による物理・化学過程及び生態系への移行など、放射性核種の様々な循環の影響や相互作用を明らかにするために、放射化学、地球化学、大気科学、海洋科学、水文地形学、生態学、森林科学など、多岐にわたる分野の研究者が連携した計画となっている。本研究領域では、国のモニタリングより広い研究領域を対象としており、領域終了後も研究継続を想定した 10 年の長期計画になっている。学術的にも色々な観点からデータをとって研究をすることに意義がある。時宜を得た研究領域であり、新しい異分野融合として定着することを期待する。</p> <p>これらの目的の達成には、大気、海洋、土壌、植生等の多領域を結合したシステムの環境動態に対してどのような新しい知見がもたらされるのか、考えられる多数のサブシステムモデルを検証するためにはどのような測定が必要か、等が重要な課題となる。震災を契機として新しい融合研究領域が形成されることによって、これら課題の解決への端緒を開くことができると期待される。また現状では、環境動態に特化した組織構成になっているが、今後の進捗状況によっては医学系領域などを公募研究として取り込むことによって新たな展開を図ることも可能である。</p>